

2020 年 8 月 29 日

ほしぞらサロン 2020 年 7 月議事録

文責：石橋 愛理

日 時： 2020 年 8 月 1 日（土）18:30～22:00

場 所： ユリックス会議室 3

参加者： 篠原*, 高尾（辰）, 高木, 宮田, 與古光

（50 音順、敬称略）

職 員： 小野田, 平野, 角田, 石橋, 阪本

計 10 名

* リモート（Zoom）参加者

1. 次回（8月22日）のほしぞらウォッチングについて

=====当日の流れ（予定）=====

18:30～整理券配布（先着 40 人）

※雨天時のみ解説 2 回。会議室 1 を待機場所として提供。

19:30～プラネタリウム解説（約 30 分間）

20:00～21:00 天体観察(多目的広場)

=====

使用機材：タカハシ（2）、（3）。

当日スタッフの人数が多ければ、ビクセン 2 台も追加したい。

観望天体：木星、土星

- ・観望の列は、天体ごとに分けずに、全体で 1 列とする。
- ・天体観望の後は、アクアドーム前のあたりで 10 分程度の星空の解説を行う。星座解説を短めにし、来場者の長時間滞在を避けたい。

1-1. 雨天時のプラネタリウム解説について

当日は、先着 40 人に整理券を配布することとしている。雨天時、来場者が 40 人を超えてしまった場合、2 回目の投影を行うか。

小野田： 40 人以上になった場合は、券売機の残席表示で使用しているディスプレイに、ドーム内の映像を映し出すのはどうか。 -->ディスプレイを見るために、来場者が密集するおそれがある。

小野田： 解説を 2 回行くとすれば、投影後に消毒や換気の時間を加味すると、2 回目の投影は 20 時頃の開始になる。開始時刻が遅くなるが、それでも見たいという人がいるかどうか。

角田： 雨天時に 2 回目を行うならば、待機場所としてユリックス内の会議室の借用が必要。

-->雨天時のみ、プラネタリウム解説を2回行う（1回目の投影が終わった後、座席や手すりの消毒を行う）。また、2回目の投影の待機場所として、ユリックスの会議室を借用する。

1-2. 来場者の連絡先（代表者氏名・電話番号）登録について

現在、プラネタリウムでは、入場者の氏名と連絡先の登録をお願いしている。屋外での観望会の参加者においても、連絡先の登録を必須とするか。

小野田： 屋外の参加者についても、連絡先記入した人にだけ見せることとするか。

角田： プラネタリウムの入場者については、博物館のガイドラインに基づいて行っている。

屋外での利用者まで、連絡先をうかがう必要はないのでは？

高尾： 連絡先の記入について、来場者には現時点で告知していないと聞いている。事前の告知がなければ不快に思う人がいるのでは。

-->当日のプラネタリウム入場者には、代表者の連絡先登録をお願いする。屋外での観望会だけの参加者については、連絡先登録は要求しない。

1-3. 観望会実施にあたって

（COVID-19 感染防止：アイピースと眼の接触防止、望遠鏡操作の際の注意）

アイピースと眼を直接触れないようにしたい。これまでサロンで話し合いを行ってきた。

-->前回のサロンでの「紙コップの底に穴を開けて、アイピースの上からかぶせてから覗く」案を採用する。紙コップを、1 グループあたり最低 1 個配布し、アイピースの上にかぶせる。覗き終わった後は、自身でコップを取ってもらう。

- ・望遠鏡で案内する際にも、操作する係は一步離れて案内するなどといった、感染防止への可能な限りの配慮をお願いしたい。

（観望の列について）

今回は、多目的広場での観望会とする（大人数の来場に備えて、十分なスペースが確保できることから）。それぞれグループごとに 1～2 m 間隔をあけて並んでもらいたい。

- ・アクアドームと多目的広場の境には段差がある。安全のため、その箇所には係員を配置、ルミカライトを置くなどの対策をとりたい。
- ・来場者同士、間隔が十分にとれるよう、多目的広場の四隅にカラーコーンを配置し、コの字型に並んでもらう想定。場合によってはかなり長い列になる可能性があり、列整理のための人員が必要になりそうだ。

-->なお、来場者が少ない場合は、様子を見て、アクアドーム前での観望会とする可能性あり。

（屋外での星空解説について）

屋外での解説を行うか。行うならば、どのように人の流れをつくるか。

篠原： 天気が良ければ、来場者も星が見たくなるだろう。極力、長時間の滞在を避けるために、屋外の解説についても約10分くらいであれば、出来そうではあるが。

小野田： 通常の観望会では、待っている列の人へ向けて解説を行っているが、今回は列をまとめて1列とするため、全員に向けた解説はできない。

高木： 解説を始めてしまうと終わりが難しく、長時間の滞在となってしまうのでは。

宮田： およそ10分程度の解説を1パターンとして、それを繰り返せばいいのでは。

-->望遠鏡で観察が終わった人へ向けた解説（要点だけを10分程度）をアクアドーム前で行うこととする。

2. ほしぞら合宿の実施の可否について

例年行っているほしぞら合宿について、今年度実施可能か。また、可能であればいつ行かうか。

角田： もちろん、政府等から県を跨いだ移動の制限など、感染拡大防止の方針が発表された場合、実施は難しくなる。もしも9月の連休ごろ実施するならば、約1ヶ月前となる8月末のサロンで最終的に実施可否を判断したい。

宮田： 宿泊を伴わず、日帰りするのはどうか。

-->今後の状況を見ながら、宿泊するという形にとらわれず、日帰りも視野に入れて考えたい。次回サロンで再び検討の必要あり。

3. クリスマス番組制作について

先月のサロンで、12月のこども向けクリスマス番組の制作について、番組製作は難しいのではないかと話が出ている。そこで、番組製作という形態だけでなく、クリスマス時期に実施する活動のアイデアを募集。例として、工作教室や、缶バッジ製作など。

引き続き、アイデアを募集中。

次回のサロンは8月29日（土）です。